

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
金沢福祉専門学校	H2年 2月28日	越中屋 薫	〒921-8164 石川県金沢市久安3丁目430番地 (電話) 076(242)1625			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 清永学園	S56年 1月6日	越中屋 薫	〒921-8164 石川県金沢市久安3丁目430番地 (電話) 076(242)1625			
目 的	将来の保育士ならびに幼稚園教諭として必要な実践的かつ専門的な能力(知識や技術)と、福祉人材にふさわしい人間性(福祉の心)を体得することを目的とする。					
分野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉分野	教育・社会福祉専門課程	こども福祉学科	2年 (昼)	2,266単位時間 (又は124単位)	平成23年文部科学大臣告示第八四号	—
教育課程	講義		演習	実験	実習	実技
	676単位時間 (又は39単位)		1,120単位時間 (又は74単位)	単位時間 (又は単位)	440単位時間 (又は10単位)	30単位時間 (又は1単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人		65人		6人	30人	36人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 講義・実習等ともに100点法に基づき、 A(80点～100点)・B(70点～79点) C(60点～69点)・D(59点以下)の標語をもって表示し、C以上を合格とする	
長期休み	■学年始め：4月1日～4月3日 ■夏 季：8月8日～8月16日 ■冬 季：12月25日～1月6日 ■学 年 末：3月19日～3月31日			卒業・進級条件	各学年の所定の課程の修了認定を受けた者は、進級できる。 所定の修業年限以上在学し、所定の課程を修了したと認められた者には、卒業証書を授与する。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 電話・訪問等により本人・保護者と継続的に連絡を取り合い、指導等を実施			課外活動	■課外活動の種類 学外オリエンテーション・球技大会・座禅・学園祭・美術館等見学 ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界 保育園・幼稚園・児童館 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 88% (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)			主な資格・検定	保育士 幼稚園教諭2種 ビジネス検定・漢字検定	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0%</p> <p>平成25年4月 1日在学者 66名 (平成25年4月入学者を含む)</p> <p>平成27年3月31日在学者 65名 (平成27年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>担任による学習支援、担任・学科責任者・校長による個別面談 (聴き取りと解決策提示)</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.k-fukushi.ac.jp</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ①企業等との連携により、学生の就業先の業界における動向や方向性、実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握し分析する。
- ②企業等の要請等を十分に生かし、実践的かつ専門分野に特化した職業教育を主体的に実践する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年3月25日現在

名 前	所 属
山岸 美恵子	(福) 松任中央福祉会 ひかり保育園園長 県社会福祉協議会保育部会保育士会会長
横山 千賀子	(福) みなと保育園 園長、
越田 理恵	金沢市保健局 局長
山本 康人	(公) いしかわ子育て支援財団 専門員
酢谷 温子	(福) 林光園 理事
越中屋 徳子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 学園長
越中屋 薫	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 理事長・校長
梅木 美重子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 教務部長
木谷 葉子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 こども福祉学科 兼 こども未来専攻科 主任

(開催日時)

第1回 平成27年11月20日 18:30～19:30

第2回 平成28年3月22日 18:30～20:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

【保育所・施設】

- ①児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験学習を通して理解させる。
- ②習得した教科全体の知識や技術を基盤とし、これらを総合的に構想し生かせる応用力、実践力を養う。
- ③保育士としての職業倫理とこどもの最善の利益を具体化する保育について学ばせる。

【幼稚園】

- ①幼稚園を学ぶ
 - ・幼稚園の内容、機能等を実践を通して理解する。
- ②幼児から学ぶ
 - ・幼児と生活をともにし、実習生自身が、さまざまな働きかけを行うことにより、自らの幼児観、保育観を樹立し、将来の保育者としての自覚を高める。
 - ・幼稚園における幼児を実践的な接触を通して集団的、個人的側面から理解する。
- ③教師の仕事学ぶ
 - ・教師の多様な職務内容及び役割、また職員とのチームワークなどを補助的な立場にたって体験的に把握する。
 - ・クラス経営の仕方、環境構成、実習簿・指導計画作成について学ぶ。
- ④自分自身について学ぶ
 - ・様々なことを経験することで新たな発見に繋がり、自己の理解を深める。
 - ・将来の目的や自己課題を明確にすることで、学習・研究への意欲を高める。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ(保育所)	こどもの言葉や身体の発達を踏まえ、必要な時期に必要な言語教材を用意することが出来るよう学習する。言語教材と言われる絵本、お話、紙芝居、素話、わらべうた等についての知識を持ち、実践できる技術の習得を図る。 また、こども達がそれらに親しむことのできる環境についても理解を深める。	キッズランドいなみえん動橋保育園 双葉保育所あさがお保育園 ぶじょう保育園高浜保育園町立相見保育所 町立中央保育所/能瀬保育園・太白台保育園 中条東保育園・さくら保育園住吉こども園 金津保育園・みずべ保育園はまなす保育園 ひまわり保育園ひばり保育園双葉保育園 伏見台保育園・野町保育園・みずき保育園 旭町保育園 犀川保育園 かさまい保育園 ヴェイテンスMC 保育園 あおば保育園
保育実習Ⅰ(施設)	保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能等について、理解を深める。子ども家庭福祉ニーズに対する理解力や判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる知識を学ぶ。	錦城学園林鐘園うめの木学園 工房シティ あけぼの作業所 ハビリポート若葉 希望が丘 若草福祉作業所 アカシヤの里ワークショップひなげし聖ヨゼフ苑作業所 しおこどもの家 フォルムののシティ 石川精育園 夢工房 仏子園 つばさ
保育実習Ⅱ	実際に指導案を作成し、クラスを担当して保育所保育の目標、内容、方法、評価について具体的に学ぶ。また、地域社会、保護者、保護者集団におけるコミュニケーションの方法と実際についても学習する。これらの学びをもとに、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させ、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。	泉の台幼稚舎 ミドリ保育園 平和こども園 キッズスクールオオウラ まどか保育園 浜岡保育園 めばえ保育園 わかばこども園 大徳保育園 田上保育園 つばき保育園 清和保育園 羽咋市立千里浜保育所 ほのみ保育園 社会福祉法人 松任福祉会 悠愛保育園 あかしあ保育園

<p>保育実習Ⅲ</p>	<p>保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能等について、理解を深める。子ども家庭福祉ニーズに対する理解力や判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p>	<p>若草福祉作業所 ワークショップひなげし 彦三のぞみ苑 夢工房 伊奈美園 仏子園 ひろびろ作業所 あけぼの作業所</p>
<p>教育実習</p>	<p>こどもの言葉や身体の発達を踏まえ、必要な時期に必要な言語教材を用意することが出来るよう学習する。言語教材と言われる絵本、お話、紙芝居、素話、わらべうた等についての知識を持ち、実践できる技術の習得を図る。 また、こども達がそれらに親しむことのできる環境についても理解を深める。</p>	<p>青竜第二幼稚園 かが幼稚園 青竜幼稚園 いずみ幼稚園 木津幼稚園 津幡とくの幼稚園 白楊幼稚園 白銀幼稚園 済美幼稚園 羽咋白百合幼稚園 聖母幼稚園 伏見かわい幼稚園 ちよの幼稚園 みはる幼稚園 みどりかわい幼稚園 金石幼稚園 妙源寺幼稚園 カルメン幼稚園</p>

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ①企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得させ資質を向上させるための、組織的に位置づけられた研修・研究の機会を確保し、計画的に受講・参加させる。
- ②企業等と連携して、教員に対し、授業及び学生に対する指導力や人間性を向上させるための、組織的に位置づけられた研修・研究の機会を確保し、計画的に受講・参加させる。
- ③研究を通して、より専門領域への学びを深め、介護福祉界への貢献とそれを背負う高度な人材を育成する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 3 月 25 日現在

名 前	所 属
外丸 妙美	(福) 自生園 法人理事兼 養護(盲)老人ホーム 自生園 施設長
平田 眞一	(学) 平田第一学園 理事長 (社団) 岡山県専修学校各種学校振興会会長 全国専修学校各種学校総連合会常任理事・全国専門学校協会副会長
山岸 美恵子	(福) ひかり保育園園長 県社会福祉協議会保育部会保育士会会長
逢坂 恵	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 同窓生 (平成4年度卒業介護福祉学科2期生) 兼非常勤講師
山崎 平治	久安3丁目第一町会 老社会 会長
越中屋 徳子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 学園長
越中屋 薫	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 理事長・校長
梅木 美重子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 教務部長
渡部 美奈子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 介護福祉学科 主任
木谷 葉子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 こども福祉学科兼未来専攻科主任
安井 裕子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 学生支援室 主任

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページにて公表 URL: <http://www.k-fukushi.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページにて公表 URL: <http://www.k-fukushi.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども福祉学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			憲法	憲法は、国家の基本法である。日本国憲法は、機能的に積極・行政・社会・福祉・給付国家であると共に、平和愛好国家としての存在を堅持すべきことを宣言した。この授業では、単に制度の枠組みを学習するのではなく、制度の沿革を探り、その趣旨・目的・機能を学習することを目的とする。立憲主義、自由、民主主義などの関係を確認しながら論を進める。	1 年 前 期	30	2	○		
○			情報リテラシーと 処理技術	情報技術を問題解決のため自分で考え活用できるようになるために、コンピューターのしくみ、動作原理など基本的な考え方を学ぶ。また、ICT 社会に対応できる技術を習得し、自己表現能力を育成する。 情報技術の基礎を学び、マイクロソフト・ワードならびにエクセルの基礎について学び、演習により使いこなせるようになる。	1 年 後 期	30	2	○		
○			情報リテラシーと 処理技術Ⅱ	実務分野で最もよく使われている応用ソフトウェアの活用方法について学ぶ。また、論文作成能力とそれを発表するためのプレゼンテーション能力を育成する。	2 年 後 期	30	2		○	
○			健康科学	人の身体構造と整理機能、健康と身体活動との関係について理解する。また、現代社会の中で健康と生活習慣の関係性や人体に及ぼす影響について解説する。	1 年 前 期	16	1	○		
○			スポーツ (実技)	生理学、解剖学、運動力学に基づく健康づくりの運動と運動技能を習得する。また、ゲームを楽しむための必要な技術、ルールを理解、自分達でゲームを作り上げて工夫していくことの楽しさ、準備、片付け等、スポーツを行うための必要な内容を学ぶ。	1 年 前 期	30	1			○

○			英語 コミュニケーション	小学校における外国語活動の導入を念頭に入れ、英語の基本的知識の復習に始まり、文法理解やグループワークを行い、簡単な日常英語を話せるように学習を進める。また、子ども達が日常生活の中で楽しんで英語に親しめるためには、どのように英語を日常生活に取り入れれば良いかを理解する。	1 年 前 期	30	2	○		
○			保育原理	保育所保育指針に基づいた保育の考え方を実践的に示しながら、保育所保育の在り方についてや保育の基本について学ぶことを目的とする。保育の歴史のや思想、概略、保育の内容と方法の基本、現代社会における保育の課題等について論じる。	1 年 前 期	30	2	○		
○			教育原理	教育の意義、目的及び児童福祉的視点との関連性について考える。教育に関する基礎的な理論や教育制度、様々な教育実践について理解する。また、生涯学習社会における教育の現状と課題についても理解する。	1 年 後 期	30	2	○		
○			児童家庭 福祉	社会状況が厳しさを増す中、教育者・保育者にはこどものみでなくその家庭を含めた支援が求められるようになってきている。 本講義では、児童家庭福祉の意義や歴史の変遷、保育との関連性、児童の人権、法制度、実施体系などについて体系的に学び、今日の児童家庭福祉の現状と課題について理解する。	1 年 前 期	30	2	○		
○			社会福祉論	社会の複雑化とともに私たちの生活スタイルは多様化し、社会福祉に求められるものも大きく変化しつつある。本講義では、社会福祉の意義や理念、制度の歴史的な変遷を学び、社会福祉の実施体制について理解する。また、社会福祉における相談援助方法や利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、今後の動向や課題についても理解を深める。	1 年 前 期	30	2	○		
○			相談援助	対人援助の理論と技術について習得し、社会福祉の専門職でもある保育士として必要な基本的態度(子どもの権利などの人権尊重、権利擁護、福祉の倫理と価値等)を保育の中でのソーシャルワークの応用と具体的な事例を通じて学ぶ。また、多様な専門職との連携等について	1 年 後 期	16	1	○		

				も学び、具体的な展開方法について理解する。						
○			社会的養護	近年、虐待の増加などに伴い、社会的にこどもを養育し保護するシステムである社会的養護の重要性が高まっている。 本講義では、社会的養護の意義と歴史の変遷、児童福祉との関連性、児童の権利擁護、自立支援等について学ぶ。また、制度や実施体系と現状や今後の課題について理解を深める。	1 年前期	30	2	○		
○			保育者論	乳幼児の育ちに専門的に支援する役割をもつ保育者について、総合的に理解する。保育者をめぐる制度的な位置づけ、保育者の専門性、保育者の協働体制等について実践的に理解するとともに、保育者の専門職としての成長の必要性について理解を深める。	1 年後期	30	2	○		
○			発達心理学	保育現場において必要となる心理学の基礎知識を学ぶ。また、様々なこどもの発達について学び、こどもへの理解を深める。そして、こどもが人との相互的な関わりの中で発達していくことを具体的に理解し、さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について学習し、保育および教育との関連を考える。	1 年前期	30	2	○		
○			教育心理学	こどもの心身の発達についての理解を深め、保育実践に役立てられる心理学的理論を身につけることを目標とする。心理学的な側面から、生活と遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程を理解することは、保育現場における効果的な発達援助につながるものである。そうした観点から、こどもの「発達」と「学習」の分野を中心に、教育心理学の基礎を広範囲にわたって理解を深める。	1 年前期	30	2	○		
○			こどもの保健Ⅰ	生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を理解し、こどもの心身の健康増進を図る保健活動の重要性を理解する。具体的な内容として、こどもの身体発育・生理機能・運動機能並びに精神機能の発達についての理解を深める。	1 年前期	30	2	○		
○			こどもの保健Ⅱ	こども保健Ⅰの続きとして保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。また、感染症を中心とした疾病について、その予防法および適切な対応、精神保健とその課題や安全の実施体制についても理解を深める	2 年前期	30	2	○		

○			こどもの保健Ⅲ	こどもの保健Ⅰ・Ⅱで学習した内容を基礎知識とし、保育の場において実践できる応用力を養う知識と技術を学ぶ。こどもの心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えて、健康増進のための適切な関わりについて学ぶ。そして、こどもの救急時の対応や事故防止および健康安全管理について具体的に学ぶ機会とする。	2 年 後 期	16	1		○	
○			こどもの食と栄養	生涯に亘る心身の健康について大切な栄養・食生活の重要性を理解し、その望ましいあり方について考える。家庭と児童福祉施設における食生活の現状や課題について知り、健全な食生活を実践するために、ライフステージごとの特徴を学び、食育の大切さと取り組み方法を考えていく。食物アレルギーなどの問題をもつ子どもへの対応方法を学ぶ。	2 年 後 期	30	2		○	
○			家庭支援論	子育て家庭を取り巻く社会的状況等を理解し、家庭の意義とその機能について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学び、子育て家庭への支援体制について理解する。	1 年 後 期	30	2		○	
○			こども学概論	従来の学際的すみわけの発想では、今日のこどもの周辺の対応に限界を生じている。今日的諸問題を基本として、家庭や社会の中でこどもに関わる事象を学ぶ。	1 年 後 期	30	2		○	
○			教育課程論	保育所における保育の計画や評価について体系的に学ぶ。カリキュラムの構成理論についての理解を踏まえ、保育内容の展開の方法である保育課程や指導計画について実践的に学ぶとともに、保育所における保育に関する、保育士および保育所の自己評価の在り方についての理解を深める。	2 年 前 期	30	2		○	
○			保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」「こどもの発達」「保育内容」の構造を実践的に理解することを基本とし、保育内容の歴史の変遷と保育内容について理解する。また、保育所保育の特性と保育実践、こどもや集団の発達特性における記録の観点、必要性を理解し、保育内容とこども理解の関わりについて学ぶ。また、多様な保育ニーズに応える多様な保育の展開の方法について具体的に学ぶ。	1 年 前 期	16	1		○	
○			こどもと健康	こどもの健康の意義と身体諸機能の発達特性について理解し、病気の予防や事故の防止、食に対する配慮・指導・援助	2 年 前	16	1		○	

				についての具体的な内容や方法を学び、こどもの健康教育に携わる保育者として求められる基本的能力を養う。	期					
○			こどもと健康	こどもの健康の意義と身体諸機能の発達特性について理解し、病気の予防や事故の防止、食に対する配慮・指導・援助についての具体的な内容や方法を学び、こどもの健康教育に携わる保育者として求められる基本的能力を養う。	1年後期	16	1			○
○			こどもと環境	乳児から幼児への時期に、自己と異なる身の回りの事象との関わりを認識し始める。周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを養おうとする姿勢を学ぶ。また、日本と外国との保育環境の違いについても学び、こどもにとっての最善の環境について理解を深める。	1年後期	16	1			○
○			こどもと環境	乳児から幼児への時期に、自己と異なる身の回りの事象との関わりを認識し始める。周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを養おうとする姿勢を学ぶ。また、日本と外国との保育環境の違いについても学び、こどもにとっての最善の環境について理解を深める。	2年前期	16	1			○
○			こどもと言葉Ⅰ	乳幼児の言葉の発達や特徴、機能等について習得する。 また、乳幼児の言葉を引き出し、乳幼児が他人の言葉を聞く態度を養い、自ら話す意欲を持つことができるような援助の仕方、保育者としての言葉のあり方等について理解を深める。	1年前期	16	1			○
○			こどもとリズム表現Ⅰ	こどもの発達と音楽表現に関する知識と技術を習得する。また、身近なものや様々な音に関心を持ち、自ら取り入れて遊び込める環境やこども達の様々な体験や表現活動を音楽活動に結びつける遊びの展開を援助できる保育技術の習得を目指す。	1年前期	16	1			○
○			乳幼児保育	3歳未満児の発育や発達を支えるための理念や歴史的変遷、役割について学ぶ。乳幼児保育の現状と課題について理解し、保護者や関係機関との連携について理解する。また、保育実践として乳幼児の「成長と発達」「生活と遊び」「保育の内容、方法、記録、計画」等、事例を交えながら学ぶ。	2年前期	30	2			○
○			障害児保育	様々な障害について理解し、保育の現場で障害のあるこどもたちと接していくために必要な知識や支援の方法などにつ	1年後	30	2			○

				いて学習する、障害児保育をを支える理念、歴史的変遷について学ぶ。また、保育計画を作成し、個別支援の方法や育ち合う保育実践、環境構成について考える。そして、障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携についても理解を深める。	期					
○			社会的養護 内容	近年、虐待をはじめとするこどもの問題は厳しさを増し、対応が難しくなりつつある。 事例を通して社会的養護・施設養護の実際について理解を深めると共に、個々の児童に応じた支援のあり方・支援計画について理解する。また、権利擁護、自立支援についてより具体的に検討し理解を深めると共に、保育者の倫理・責務についても学ぶ。	1 年前期	16	1			○
○			保育相談 支援	こどもの福祉に関わる保育士として、実際の保護者支援を学び、家庭の養育力向上のための支援について学び、こどもの健全な保育に関する様々な相談に対応できるための知識と技術を習得する。	1 年後期	16	1			○
○			保育内容 演習Ⅰ	5領域のそれぞれの内容を把握し、こどもの生活の中での一つ一つの活動の中でも、5領域の様々な内容が含まれていること、こどもの生活を援助するとは、どのようなことなのかを学ぶ。また、5領域を保育の中で生かすことのできる保育について演習を通して実践的に学ぶ。	1 年 通 年	30	2			○
○			保育内容 演習Ⅱ	5領域の内容を保育の中で生かせる、知識や技術を習得することを目的とし、様々な演習を行い、知識と技術を統合し、保育現場で生かせるスキルを身に付ける。	2 年前期	30	2			○
○			教材研究Ⅰ	こどもの発達や表現を視野に入れて、制作の基礎・基本・表現技法などを理論と実技の両面から実践的に学ぶ。単に製作するだけでなく、こどもの発達や思考をイメージしながら、保育所・幼稚園で行われている教材をとりあげ、工夫し創造しながら作品を制作する。	1 年 通 年	60	4			○
○			教材研究Ⅱ	こどもの発達と関連して教材研究を中心に製作指導を行う。また、教材に使用する材料、表現方法なども学び理解を深める。単に製作するだけでなく、こどもの発達や思考をイメージしながら、指導案を作成し、指導演習を行う。	2 年 通 年	60	4			○

○			こどもと造形表現Ⅰ	こどもは発達と共に感性が広がり、無限の可能性を秘めており、いろいろなことに興味を持ちチャレンジしてゆく。この講義ではこどもの造形表現の道筋から、こどもの絵の特徴を学び、造形の環境づくりを習得して、こどもの心にふれるには、どのようにすればよいかを学ぶ。	2年前期	16	1		○	
○			こどもと音楽表現Ⅰ	音楽表現の基礎であるソルフェージュを演習し、読譜力と実践力を養う。基本的な楽典とリズム譜の書き方を確認し、音楽の基礎知識や読譜力の向上を目指す。	1年通年	30	2		○	
○			こどもと音楽表現Ⅰ(ピアノ)	ピアノという楽器の基礎的な技術を身につける事によってこども達との豊かな音楽表現へ結びつくようにピアノ実技指導を行う。	1年通年	20	1		○	
○			こどもと音楽表現Ⅱ	幼児保育の現場においては歌うという事は、コミュニケーションの手段として、また子供達の情感を豊かにする方法の一つとして、欠かせないものになっている。その現場で、すぐに活用できる能力(正しい音程やリズムで、明るく元気に楽しく歌う)を身につける。	2年通年	30	2		○	
○			こどもと造形Ⅰ	こどもの成長過程における様々な表現に関しての感性を育て、創造性を育てるために幅広く表現の意義とその必要性を理解し、保育者、指導者としての知識、力を磨く。行事と表現活動や、指導計画(保育案)について、指導、助言についても学ぶ。	1年前期	16	1		○	
○			こどもと造形Ⅱ	こどもの成長過程における様々な表現に関しての感性を育て、創造性を育てるために幅広く表現の意義とその必要性を理解し、保育者、指導者としての知識、力を磨く。行事と表現活動や、指導計画(保育案)について、指導、助言についても学んでもらう。また、造形表現技法やいろいろな素材についても実技と関連して学んでもらう。	1年前期	16	1		○	
○			こどもと体育Ⅰ	こどもの心身の発育・発達の様相を十分に理解し、教育者・保育者として必要な体育に関する基礎的知識及び技能を学習し、幼児の健全な身体発達を促すための指導方法を学ぶ。	2年前期	16	1		○	
○			こどもと体育Ⅱ	こどもの心身の発育・発達の様相を十分に理解し、教育者・保育者として必要な体育に関する基礎的知識及び技能を学習し、幼児の健全な身体発達を促すための具体的な指導方法を実践を通して学ぶ。	2年前期	16	1		○	

○			こどもと 言語表現	こどもの言葉や身体の発達を踏まえ、 必要な時期に必要な言語教材を用意する ことが出来るよう学習する。言語教材と 言われる絵本、お話、紙芝居、素話、わ らべうた等についての知識を持ち、実践 できる技術の習得を図る。 また、こども達がそれらに親しむこと のできる環境についても理解を深める。	2 年 前 期	16	1		○	
○			こどもと 音楽	楽典の理解を深め、音楽の要素として のメロディー、リズム、和音を知り正し い演奏につなげていくことを目的とす る。音楽の記録法、コードについても学 び、楽典の基礎を学ぶ。そして、こども 達の音楽表現を援助できる力を養う。	1 年 前 期	30	2		○	
○			こどもと 音楽Ⅱ	ピアノという楽器の基礎的な技術を身 につける事によってこども達との豊かな 音楽表現へ結びつくようにピアノ実技指 導を行う。各学生のその様々なレベルに 合った教材を用い、基礎的なピアノの表 現方法を習得する。そして、何よりも音 楽の楽しさを体験することを大切にする。	1 年 通 年	60	4		○	
○			こどもと 音楽Ⅲ	ピアノという楽器の基礎的な技術を身 につける事によってこども達との豊かな 音楽表現へ結びつくようにピアノ実技指 導を行う。コードを用いた伴奏付けや弾 き歌いを習得する。そして、何よりも音 楽の楽しさを体験することを大切にする。	2 年 通 年	60	4		○	
○			保育実習 指導Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所およびその他の児 童福祉施設等)についての事前指導およ び事後指導を行う。事前指導として保育 実習の意義や目的、また実習の計画や実 践等を具体的に理解する。事後指導とし て実習を総括し、自己評価と発展的課題 について学ぶ。	1 年 通 年	30	2		○	
○			保育実習Ⅰ (保育所)	こどもの言葉や身体の発達を踏まえ、 必要な時期に必要な言語教材を用意する ことが出来るよう学習する。言語教材と 言われる絵本、お話、紙芝居、素話、わ らべうた等についての知識を持ち、実践 できる技術の習得を図る。 また、こども達がそれらに親しむこと のできる環境についても理解を深める。	1 年 後 期	80	2		○	
○			保育実習Ⅰ (施設)	保育所以外の児童福祉施設の養護の実 践をし、保育士として必要な資質・能力・ 技術を習得する。施設を利用する対象 児・者と養護内容の実際、施設のもつ全 体的な養護機能等について、理解を深め る。子ども家庭福祉ニーズに対する理解	2 年 後 期	80	2		○	

			力や判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる知識を学ぶ						
	○	保育実習Ⅱ	実際に指導案を作成し、クラスを担当して保育所保育の目標、内容、方法、評価について具体的に学ぶ。また、地域社会、保護者、保護者集団におけるコミュニケーションの方法と実際についても学習する。これらの学びをもとに、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させ、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。	2 年 後 期	80	2			○
	○	保育実習Ⅲ	保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能等について、理解を深める。子ども家庭福祉ニーズに対する理解力や判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	2 年 後 期	80	2			○
	○	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱ(保育所)についての事前指導および事後指導を行う。保育の内容や方法、形態、表現技術等についての実践的な力量を培い、一人一人のこどもへの適切な関わりについて学ぶとともに保護者支援の方法についても理解する。保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。	2 年 後 期	16	1			○
	○	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲ(その他の児童福祉施設等)についての事前指導および事後指導を行う。こどもや利用者の最善の利益を考慮した保育を実践的に理解するとともに、保育の計画や実践についてより深く理解する。ケアの方法を中心として保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。	2 年 後 期	16	1			○
○		保育・教職実践演習	保育者になる上で最小限必要な知識・技能がどの程度形成されているか最終的に確認するものとして位置づける。保育に関する科目横断的な学習能力を習得し、自らの課題を自覚してその習得に努めるなかで保育者として十分な技術をもってスタートできることを目的としている。授業内容は様々な場面を想定したロールプレイ、個々のこどもに応じた対応の仕方など模擬保育を通して実践的指導力問題解決能力、判断方法等の獲得を図る。また、保育者として必要な使命感、責任感、人間関係調整力等の資質の向上	2 年 前 期	30	2			○

				を図る。						
○			卒業研究	自己課題を持ち、卒業課題をまとめる方法を学ぶ。発表の仕方を学び、大勢の前での発表法や聴く態度を養う。また、発表を通して、保育士としての自己課題を明確化し課題研究につなげる。	2年前期	30	2		○	
○			教職論	教師の資質における「不易」と「流行」及び教師の役割を学ぶ。 教育の諸問題をとらえ、教師としての根本的資質を学ぶ。	1年後期	30	2		○	
○			教職論	教師の資質における「不易」と「流行」及び教師の役割を学ぶ。 教育の諸問題をとらえ、教師としての根本的資質を学ぶ。	2年前期	30	2		○	
○			教育方法論	教育方法の変遷をとらえ、教育方法の意義や学習指導のあり方を探る。	2年前期	30	2		○	
○			教育相談	教育相談の基本を学び「子どもの理解」及び「保護者への心理的援助」を深める。	2年前期	30	2		○	
○			教育実習 事前指導	教育実習の意義や、目的、心得等を理解する、 指導案等必要な書類の書き方を理解する。	1年後期	16	1		○	
○			教育実習 事後指導	教育実習の意義や目的を理解する。実習の心得やマナー等を理解し、教育実習に必要な知識や保育技術を学ぶ。必要な書類の書き方を習得する。	2年前期	16	1		○	
○			教育実習	こどもの言葉や身体の発達を踏まえ、必要な時期に必要な言語教材を用意することが出来るよう学習する。言語教材と言われる絵本、お話、紙芝居、素話、わらべうた等についての知識を持ち、実践できる技術の習得を図る。 また、こども達がそれらに親しむことのできる環境についても理解を深める。	2年前期	160	4			○
○			課題研究	課題研究は2年間の学ぶの集大成である。課題研究が将来の職業の道標となるよう実りある研究発表を行う。	2年後期	30	2		○	
○			手話入門	聴覚障害の特性の理解・基本的な手話の技術習得 聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識を習得 聴覚障害の特性に応じた援助技術及び	1年後期	16	1		○	

			介護・保育に関する知識の習得する。							
○		点字入門 27年度履 習無し	視覚障害者が情報を入手・伝達する手段としての「文字」である点字に関する知識を得て、読む書くの技術の修得をはかるとともに、視覚障害者の現状に対する理解を深め、実際に接する際に役立つ。	1 年 後 期	16	1			○	
○		音楽療法 27年度履 習無し	音楽療法の基礎を学ぶ。 音楽を介したこどもとの関わりを学ぶ。	1 年 後 期	16	1			○	
○		アクティビ ティ理論	教育現場において「アクティブティサービス」の教育の必要性を認識し、教授法、今後の教育の達成目標を明確にする。	1 年 通 年	30	2			○	
○		アクティビ ティ技術	教育現場における「アクティビティ・サービス」の様々な教育（高齢者及び障がい者）の必要性を認識し、教授法を実施する。	1 年 後 期	30	2			○	
○		コミュニケ ーション 技術 27年度履 習無し・削除	福祉現場における援助的関係や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、こどもたちやサービスの利用者とその家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。	1 年 前 期	16	1			○	
○		検定指導Ⅰ	検定指導の意味と意義を知る 検定試験受検の学習を通して、自身の学習能力向上、研鑽につとめる。	1 年 通 年	30	2			○	
○		検定指導Ⅱ	検定指導の意味と意義を知る 検定試験受検の学習を通して、自身の学習能力向上、研鑽につとめる。	2 年 通 年	30	2			○	
○		課外授業	「誠実」「勤勉」「創造」を育むために自己探求会（座禅）、学園祭、海外研修等の行事に取り組み、福祉現場での有益な人材を育成する。	1 ・ 2 年 通 年	適 宜	適 宜		△	○	
○		特別 ゼミナール	相手の気持ちを大切に考える、きちんと挨拶が出来る、コミュニケーション能力がある、我慢強い、問題解決に取り組む姿勢や実行力など、人と人とのつながりが基本となる福祉人にとって必要なスキルを学ぶ。	1 ・ 2 年 通 年	適 宜	適 宜		○	△	

○		現場体験 学習	ボランティア体験を通して福祉の心を 育む。 保育関係のボランティアを通して、将 来の保育者像を構築する。	1 年 通 年	64	—			○
○		ホーム ルーム (学習指 導)	クラスを自己運営する力を養い、その 中から、他者を思いやり、協力する心を 育てる。	1 ・ 2 年 通 年	120	—	○	△	
合計					73科目		2,266単位時間(124単位)		